

30年目を迎えてより始めた関西初のフルジーフ

特集

「大阪市南区南炭屋町」。今となつてはどこにも存在しないこの住所に、60~70年代のノスタルジーを覚える人も多いはず。かつて若者がサーフボードを抱えて歩いた街も、今ではすっかり様変わりした。街をステージに自己表現してきた若者たちの歴史、現在進行形で周辺エリアへ拡散するアメリカ村の精神、そして、これからアメリカ村が持つ可能性を探つてみた。



いつの時代も若者文化をリードするアメリカ村

今から約30年前、60年代後半に大阪市南区南炭屋町の三角公園（御津公園）を中心とする一角に、サーフボードやヒップピーなどアメリカのファッショニズムに憧れる若者たちが集まり、中古衣料やサーフボードを扱うショップが出現して新しい街が形成された。当時、そこには既存の商店街も、ましてや核となるような大型資本の商業施設も何も存在しなかつたのに、でもある。真っ白なキャンバスのように何もないところへ、自己表現の表出の場として若者たちが集形はどうあれ、30年にもわたつ

は残つていかない。そこらへんの面白さがアメリカ村の活力を生んでいる。中身を作るのは若い子じやないと、新しい表現はできないと思うね」と分析する。

て若者の文化とビジネスが共存し、パワーを失わない街というのは稀少であり、何かそこに理由が隠されているはずである。アメリカ村をアメリカ村たらしめている街のパワーの源は一体どこにあるのだろうか。

現在のアメリカ村は百花繚乱。西海岸のガレージセールで仕入れた商品をオーナーが趣味の延長上で売りこなすことは象徴的である。

アメリカ村を知る上で決して無視できないのが、ここ数年の南船場、新町、堀江など、アメリカ村内のサテライト的エリアの街の動向である。高騰するアメリカ村内の家賃や低年齢化する客層に見切りを付けたショ

ップのオーナー、ミナミへ進出する際に心斎橋やアメリカ村には手が届かなかつた若き経営者たちの出店。あるいは、意図的にサテライトの気ままさを選択してオフィスやアトリエを構えたクリエーターたちもいる。

南船場はカフェや飲食店も増えて、もはやひとつつの街として形成された感もあるが、新町、堀江辺りはいまだ日常的な生活感を残す街並の中に、ところどころ洗練されたショップが目に止まるといった感じ。ここなら古いビルに手をかけて一から作り上げるということも可能。アメリカ村では雑居ビルの5階しか借りられないでも、サテライトならガラス張りの路面店も夢ではないのである。かつて、倉庫や貸しビルを安い賃料で借りられた炭屋町に若者が集まつたのと同じ現象が、いまこれらの地区で起きているのだ。



南船場、新町、堀江

盛大するアメリカ村

さばく……、といった当初のアメリカ村型ビジネスだけではなく、OLやビジネスマンもターゲットにした大型テナントビルのビッグステップもあり、チエーン展開の大手スニーカーショップあり、また飛ぶ鳥を落とす勢いのユニクロも進出している。まさにアメリカ村は群雄割拠の戦国時代。ファッショニズムも恐しく多様化している。

「梅田店から来た当時、正直言つてたまらんなど思つてました（笑）。

でも、最近、少し面白さがわかつてきましたよ。出入りしている人種が面白い。外から観てるだけでは理解できなかつたが、彼らが感じている、いいとか悪いとかの感覚が何となく理解できるようになつてきた。

最近は昼休みに三角公園の辺りをブランチと散歩しながら休憩するのが好きなんですが、心斎橋よりずっと面白い。歩くだけで買物はしないですけど、無節操というか無秩序とい

うか、意外性がある。もうムチャクチャ。笑かしりますけどね（笑）。

それに、昔は不良のたまり場、非常に特殊なスポーツというイメージがあつたアメリカ村ですが、変わつてしましましたね、最近は。年齢層が下がつたというよりは、普通の人が増えたというのかな。個人的には普通の人もどんどん来れるような街になつてほしいですけどね」

三角公園にほど近いガラス張りのビルからアメリカ村の人の流れを見下ろしながらこう話してくれたのは、心斎橋の老舗楽器店、三木楽器のアメリカ村店店長の藤村篤志さん。藤村さんは心斎橋や梅田店勤務を経て、昨年このアメリカ村店に異動してきましたばかりだ。

一方、アメリカ村の30年を内から見守つて來た「アメリカ村の会」会長の森本啓一さんも、「上から見てたつてわからない。働いてる店員や店長さんの意見が合わないとその店

今日もノリノリの藤村店長



今日もノリノリの藤村店長

まり、ビジネスの夢を追いかけたエトピアのような街、それが「アメリカ村」だった。

60~70年代の若者のファッショニズムに憧れる若者たちが集まり、中古衣料やサーフボードを扱うショップが出現して新しい街が形成された。当時、そこには既存の商店街も、ましてや核となるよ

うな大型資本の商業施設も何も存在しなかつたのに、でもある。真っ白なキャンバス

のように何もないところへ、自己表現の表出の場として若者たちが集形はどうあれ、30年にもわたつ



昔ながらの古着屋と大資本の大型店舗がみごとに共存する現在のアメリカ村

アメ村改造計画<2>

現在進行中のインディーロード（仮称）構想とは、OCA-Tや再開発中の湊町ガードンプレイスがある湊町界隈と、堀江・立花通り・アメリカ村を一周3km程度のループ状の「道」でつなぐという大プロジェクト。これは、回遊性のある道路で各エリアをつなぐことによって、大きな面としてミナミの街全体を活性化させようというものの。OCA-Tと立花通りの間の道頓堀川には、歩行者・自転車専用の吊り橋・トウモロープリッジ（仮称）が建設される計画もあり、実現すればミナミの新しいランドマークとなることは間違いない。

るじはマンガ本の紙で作つたりサイクルボードなど、いろいろあります。いらなくなつたら燃やせばいい炭になるとか、これらの材料はリサイクルで再利用もできるんです。表示板やベンチはもちろん、リバーブレイスに架ける吊り橋にも使いたい。渡つてみたいなどみんなに思わせる魅力的な橋にしたいですね。四国・吉野川に架かるかずら橋みたいにね」と楽しげに語るのは、アメリカ村の会まちづくり委員会でリサイクルやインティードード構想に携わる北條和男さん。インディードード＝エコロードとしての期待も大きい。歴史ある街や商店街と新しい商業エリアをつなぐ、文字どおりの夢の架け橋になりそうだ。

大阪ミナミの新旧の街をつなぐ
インディード構想

い人と接していきたいという人もかなりいました。でも、反対するばかりで年配の人の発想というのは、おもしろいな、これええなと感動するようなもんは何ひとつなかつた。今でもそうやし。年配の人は口は出しあんねんね。でもようよう聞いてたらグチばっかし。行動を起こすとはなかなかしはらへん。手弁当でええやんと言うても、それしたらなんぼ損するの？ そつから始まるからね。お金使うでしょ、行動するつことは。そこから始まるからおか

時も、まずゴミ拾うのが恥ずかしいとかね。『私らもう最初からしてやんか、そんなこと』って。ゴミ拾うのが目的と違うやん、若い人と一緒になつてやらんと分かれへん』

森本さんの役割は、当時から町内会の人を説得する立場だつたらしく時には自分が熱くなつて若者と対立したことも。若者と町内会の間に挟まれて、随分苦労したこと多かつたという。現在、森本さんの下にはゴミ問題を真剣に考える若い世代が育ちはじめている。クリーンアップ

**住民と若者の対
アメリカ村の**

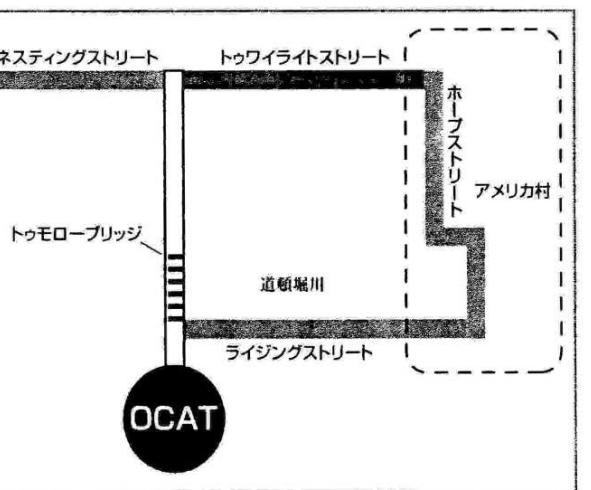
住民と若者の対立と共存 アメリカ村のもうひとつの歴史

に若者の情報交換と発信の場となっている。オーナーはアメリカ村誕生のきっかけになつたと言われる「ループ」や「パームス」をプロデュースした日限万里子さん。「ミュゼ大阪」の存在感やスタイルは、かつて地下1階がディスコ、1階がカフェ、2階がバーという斬新な営業形態でミナミの夜をリードしたクラブ「パームス」と重なるのである。

「パームスは日限さんが出ちゃつてから知らんけれど、彼女がおることによつて、店はえらい変わるねえ。彼女は今、堀江の方を掘り起こしてきたいと言つてがんばつてる。だ

堀江公園に面して周囲の景観にしつくりとなじむ「ミュゼ大阪」はその象徴的な建物である。カフェであり、ギャラリーであり、サロンであります。

けど、南船場とか堀江の立花家具商店街の人たちは、今の状況に少し危機感みたいなものを持つてはるね。アメリカ村の初期みたいな。『カナダ村なんて言わんといて、なんちゅ



アメリカ村の会
まちづくり委員会 部会長
北條和男さん

「うひとつの大歴史」と共存のなさに、「汚くなつた」「うるさくなつた」と地元住人たちが怒りを露にするのも無理はなかつた。

ところで、今回の取材で主にお話をうかがつたのは、会長の森本さんを中心にはアメリカ村の会の活動を推進する20～50代まで、あらゆる世代

現在、これらの街を歩行者を主役にした道路でつなぐ「インディーロード構想」というものも生まれている。再開発が進む湊町と堀江を新しい橋でつなぎ、アメリカ村を含めた面としての商業エリアに育てようという試みだ。そんな歴史や時代背景を知るよしもない子供や若者たちで、アメリカ村は相変わらず賑つている。

街はすでに動き始めているのだ。

400年の歴史がおまんねんで」言うてやつてはるさかいねえ」と、四ツ橋筋を挟んだ対岸の様子を森本さんはこのように苦笑する。ここでも街はすでに動き始めているのだ。

を代表するアメリカ村のキーマンと呼ぶべき人々である。アメリカ村の会は正式名称を「大阪市中央区ミナミ商店会連合会 アメリカ村の会」という。加盟店はざつと150社₃

店舗くらい、月会費1000円



アメリカ村の会
インターネット推進委員会
熊坂久さん

